

一般質問 管原研治議員 2項目を問う



管原研治議員

問 林家への支援対策が必要ではないか

答 森林経営計画の策定に取り組んでいきたい

問 消防団員の処遇改善が必要ではないか

答 周辺自治体の推移を見守りたい

林家への支援対策

問 町独自の奨励金や協力を交付し、道ばた林業への積極的な協力を図るべきでないか。

答 町が推進している「道ばた林業」は森林組合に計画の取りまとめを依頼しているため、理解と協力をお願いしたい。

問 農地と隣接する山林伐採を優先し、農作物への被害回避を図るべきでは。

答 農地と隣接する森林の5ヘクタール以上が集約が可能であれば、補助事業として実施することも可能となる。

問 行政が主体となり林家に対し具体的な説明や計画を示すべきでないか。

答 森林環境保全直接支援事業を森林組合に委託し、町担当に加え大河原地方振興事務所林業振興部にも出席いただき説明会を実施しており、今年度も継続し森林

所有者と共同で計画策定に取り組んで行きたい。

問 奨励金を林家が事業資金に拠出することで山林の団地化が容易に進み、林家の実益が確保されるのでは。

答 道ばた林業に民有林を加えモデル事業として実施し、伐倒や運搬経費に助成する姿勢を示して行きたい。

問 林地の団地化を図れば木質バイオマス燃料の確保など、山林が有効的な収入源となるのではないか。

答 チップ関係の需要が高まれば、機械や施設の導入も視野に検討して行きたい。

消防団員の処遇改善について

問 報酬や出動手当などを見直し、総合的な処遇改善を図り、団員の維持確保を講じるべきでないか。

答 仙南二市七町の団員報酬を比較すると、ほぼ平均額となっているが、今後、周辺自治体の推移を見守りたい。

問 さまざまな現場を想定した場合、皮の手袋なども支給すべきでないか。

答 消耗小物については幹部会の申し合わせで各分団、各班で対応している。

問 役場の若い職員を地域消防団に配属させるべきでないか。

答 幹部職員や女性以外の職員ほとんどが消防団に入団しており、新規採用の職員も全員団員となっている。

問 訓練出動手当を多く支給している自治体もある。

答 訓練出動手当の必要性を重視しているのではないかと。本町の事態を検討し、引き続き調査させていただきます。

一般質問 梅津政志議員 2項目を問う



梅津政志議員

問 克雪対策への支援の拡充は

答 現状を把握し補助制度を拡充する

問 ふるさと体験交流館の運営方法は

答 通過型観光客を滞在型にシフトさせたい

雪害対策と建物改築助成

問 雪に強い建物への改築に対する支援の拡充について伺う、大雪により屋根の軒が折れる被害が多くみられたが、軒の補強や雪から建物を守るための改築工事に対する補助の充実を望むが。

答 街並み景観条例の補助対象事業にも雪害や克雪住宅に対しての助成は対象外となっている、今後現状の実態や状況を把握し該当する施設整備等を研究し、補助制度の検討をしたい。

問 小型除雪機の購入に対する助成金制度も整備されたPRに努めるとともにさらに充実した克雪政策を望みたい。

答 小型除雪機の購入補助金を予算化した、既存の高齢者等除排雪対策協議会への補助や除雪ボランティアへのマンパワー支援の継続と、豪雪時の福祉灯油券の発行も考えていく。

問 湯原地区内の町道においての消雪道路、ある

いは流雪溝の設置を望むが、県内有数の豪雪地帯でもあり除雪費用等、国、県の支援を受けるためにもアメダスの観測設置は可能か。

答 湯原地区内の消雪道路や流雪溝の計画はない、アメダスの設置については今後も設置の依頼を継続する。

ふるさと体験交流館の運営

問 旧湯原小学校は「ふるさと体験交流館」として今秋オープン予定だが今後の運営方法とこの事業が軌道に乗るまでの町としての支援はまた集客に向けて計画は。

答 本町への観光客を通過型から滞在型にシフトし、地域資源を生かしたイベントの開催と、スポーツ合宿や地域団体等の地域間交流やインバウンド（外国人旅行者）による利用も見込む、また運営は指定管理団体が管理の主体となり町が当面指定管理料という形で支援する。

問 大きな管理費用が発生するが事業費に見合っ

た効果は期待できるかまた集落活性化にはどう結び付けるのか。

答 湯原地区民には食材の提供や臨時的に発生する人員の確保や地区のイベントなどへの参加、農業体験時の案内と指導についても協力をしてほしい

問 旧湯原小学校一帯は湯原城跡として町指定の文化財となったが周辺開発に支障はないのか。

答 校庭や進入路の工事の際には関係すると思うが、工事の際には担当課と協議をして進める。

問 ふるさと体験交流館の今後の運営に湯原城はどう活用するか、冬季のスキー客の宿泊も期待できるのでは、またスタッフの確保策は。

答 宿泊施設と湯原城跡は特に関係性は考えていない、スキー客を宿泊客として取り込むことを考えている、スタッフの募集は10月のオープンに向けて早い時期からの募集を実施する。